

KICS 835 King Record Co., Ltd. 1-2-3 Otowa Bunkyo-ku Tokyo 112-0013 Japan.



風曆

かせこよみ

手仕事屋きち兵衛

- 1 安曇野 4:28
作詞・作曲／手仕事屋さち兵衛 編曲／TOSHITARO
- 2 ふる里景色 3:59
作詞／池田充男 作曲／手仕事屋さち兵衛 編曲／TOSHITARO
- 3 生きている悲しみ 3:52
作詞・作曲／手仕事屋さち兵衛 編曲／TOSHITARO
- 4 ふる里に帰りたい 4:04
作詞・作曲／手仕事屋さち兵衛 編曲／小畑和彦
- 5 いつの日にかあなたと 4:08
作詞・作曲／手仕事屋さち兵衛 編曲／小畑和彦
- 6 ホリデイ 5:54
作詞・作曲／手仕事屋さち兵衛 編曲／小畑和彦
- 7 印象派 5:12
作詞・作曲／手仕事屋さち兵衛 編曲／TOSHITARO
- 8 木更津にて 4:06
作詞／小山義雄 作曲／手仕事屋さち兵衛 編曲／小畑和彦
- 9 秋の日 4:09
作詞・作曲／手仕事屋さち兵衛 編曲／小畑和彦
- 10 花束をあなたに 5:04
作詞・作曲／手仕事屋さち兵衛 編曲／小畑和彦
- 11 安曇野 ～reprise～ 1:07
作曲／手仕事屋さち兵衛 編曲／TOSHITARO
- 12 わすれ雪 (ボーナストラック) 5:11
作詞・作曲／手仕事屋さち兵衛 編曲／小畑和彦



安曇野

静かなせせらぎ沿いに 花びらをこぼして
咲く花オオヤマザクラ 髪にもふりかかる
うらうらと歩く小道 ふと見上げれば
雪形残る山並み 春の日安曇野

沸き立つ雲を焦がして 陽射しが降り注ぐ
隠れた木立の中に 激しい蝉時雨
木漏れ日浴びた体に 涼風吹けば
想わず目を閉じている 夏の日安曇野

高く抜けた青空に 遠のく遠い雲
旅立つ鳥達交じり 遙かにかすんでる
まばゆい紅葉嵐も 通り過ぎれば
うら寂しさ連れて来る 秋の日安曇野

墨絵を覗いているような 砂絵を覗くような
静かに時さえ止めて 一面銀景色
粉雪 吹雪がやんで 夜が降りれば
星つぶがつかめそうな 冬の日安曇野

ここがわたしのふる里 ここに帰れば
すべてがやさしくなれる わたしの安曇野
わたしの安曇野

ふる里景色

朝顔垣根に夏の色
つるべはするする水を汲む
むぎわら帽子の影ふたつ
井戸から西瓜をひき上げる

ほうほう蛍 蛍を追って
遊んだふる里 夢のなか 遠い空
水車がコットン 麦をひく

みなとの坂みち まつり笛
小舟の白帆が 見えかくれ
手ぬぐい母さん 網干し場
ちいさな背中に 秋の風

ちんちん千鳥 千鳥が鳴いて
親よぶその声 夢のなか 遠い波
灯台ばかりと 沖を指す

てんてん手まり 手まりについて
遊んだ寺町 夢のなか 遠い里
粉雪ちらちら 竹に舞う

生きている悲しみ

生きてることに少し疲れて
ため息ついてふと立ち止まる
人はどうして生きてゆくのか?
ふいにおそう行き場のない深い悲しみ
オーイ オーイ 泣いてばかりの
はぐれていた迷子がまた 見え隠れする

生まれたことの原因を探して
歩き始めた私の人生
迷路を抜けて 峠を越えて
孤独のなか たったひとつ見つけたいの
オーイ オーイ 誰かいないかあ?
私を待つあなたは今 どこにいるのか

人は誰でも自分という名の
迷子を連れて尋ねて歩く
私はどこの何者なのか?
どこから来てどこまで行く旅人なのか?
オーイ オーイ 呼びかけながら
また一人で歩いてゆく 歩きはじめる

ふる里に帰りたい

ふる里に帰りたい
幼い日遊んだ山や川
あかい夕日に染められた
まるいそのほほ目に浮かぶ

ふる里に帰りたい
叱られてこみあげた涙顔を
ぬぐってくれた風の中で
今もう一度泣いてみたい

ふる里に帰りたい
遠い日のあの頃に戻れたら
どこかにいつか置き忘れた
純な心を抱きしめたい
純な心を抱きしめたい

いつの日にかあなたと

いつの間にかここに生まれて
いつの間にか大人になった
いつの日にかあなたに逢って
いつの日にか愛を見つける
風よもっと吹いて
ステキな人を早く連れて来い
いつもいつも夢を見ている
そっと胸に抱いてつぶやく
いつかこの街の片すみを
誰かとふる里にしてると

ふる里を共に愛せたら
優しくなれそうな気がする
この街を共に愛せたら
もっと変われそうな気がする
そんな人にいつか
この街できっとめぐり逢える
いつもいつも夢を見ている
そっと胸に抱いてつぶやく
いつかこのまちの片隅を
誰かとふる里にしてると

風よもっと吹いてステキな人を早く連れて来い
いつもいつも夢を見ている
そっと胸に抱いてつぶやく
いつかこの街の片隅を
誰かとふる里にしてると

ホリデイ

カーテンの隙間から昼光が差して
君の顔を照らす
細い首と頬が白く浮き上がり
眉を寄せて寝返り
ぼくは目が覚めて
ボンヤリ煙草ふかしているのに
夢の続きをまだみているね
背中を指で押して「オ、ハ、ヨ、オ」

ゆうべは久し振りに
おしゃべりがすぎて
かすれた声で「今、何時？」
髪をかき上げて振り向く君は
細めた瞳で背伸び
今日の始まりはいつもと違いスローな気分
休みの日には
優しくなれる
何んの予定も今日は無いから

街は忙しくて
二人の時間がとても足りない
休みの日には
二人ぼっちで
誰かが来てドアは開けずに

現代はスキがなくて
生きてる時がつかみきれない
休みの日には
もっとルーズに
何もしないで
もっと自由に
何もしないで
もっとルーズに

印象派

僕の首にまわる君の腕
やわらかくまつわる 無意識の内に
眠る君は子供みたいだね
背にしたスタンドに うぶ毛が透けてる
素肌の肩先 ふちどる光が
いつの日か見とれた 絵のように揺れる
僕の腕の中に 全て解き放して
眠りに落ちている 君は静かな寝息

ほんの少し開けた唇に
指先で触れるとほんのり微笑む
眠る前にいつも眺めてる
画集がそのままに ページが揺れてる
君が好きなのは 光の画家達
眩しく暖かいピュアな印象派
君は夢の中で 今日も尋ねている
「若くまだ名もない画家の家はどこです？」

いつか時が二人に流れて
あの頃に見ていた 夢も本の中
今がとても幸せだけれど
大人になれた分 何か失くしてる
安らかな寝顔 静かすぎて ふと
でも穏やかな構図は まるで印象派
僕は今も君を見つめ続けている
君を胸の中に描き続けている
筆は持たないけど 僕は今も印象派

木更津にて

桜貝寄せる岸辺に 肩組んで夢をひろった
遠いあの日の海も消え去り
波のささやき 今はずこ あ あ あ
いつかしら時過ぎて老いひとり
静かに渚さまよう

悲しみを海に沈めて 夕焼けにもろ手かざして
明日に誓った空を探せど
むなく風が吹けばかり あ あ あ
寒々と身にしみて老いひとり
しみじみ風の声聞く

光る波燃える帆の色 紅富士の遠い招きに
胸をこがしたあの少年は
心の奥に住んでいる あ あ あ
故郷にもどり来て老いひとり
今なお海に夢追う 今なお海に夢追う

秋の日

面影のせてゆく秋は 風に吹かれていたいね
過ぎた夏の思い出 少し切なく
青さを増した空の中 ひきずられたような雲
角もなくてかすれて それで消えないね
心の中にも同じ景色ができる
からつぼの中にかき消せないあなたの景色

暑すぎた夏の分だけ 季節の移りが早い
こがした肌の色がまだ馴じまない
透明な空気の静けさ 動きを止めた秋の日
静かすぎてなんだか 耳鳴りがするね
あの人の声が残っている
この高い空と遠い雲にあなたが映る

人はそれぞれにきつと似合う景色が違う
だからあなたに憧れずれ違う

枯葉散らしてゆく秋は 風に吹かれていたいね
なごり色の景色は 淋しいけれど
秋の陽射しは暖かく 不思議と安らいでゆく
めぐりめぐる季節に心あずけて
めぐりめぐる季節に心あずけて

花束をあなたに

今のままでいいと静かに笑う
今のままがずっと続けばいいと
穏やかな暮らし望んでる
そんなあなたに こんな僕から
真心だけそっと包んで贈ろう
野に咲く花を 少し集めて
小さな花束にして

大きな夢よりも変わらぬ日々を
強い男よりも優しい男に
なにげなく交わすまなざしに
確かな愛を感じていれば
きっといつも輝いていられると
そんなあなたに似合う花は
野に咲く花の花束

人の一番あとを歩いて来た人
人より目立つものがなんにもないと
そんなつまらない女だと
だけどぼくにはそんなあなたが
巡り逢えた時から今も眩しい
だからこのまま居て欲しいから
この花束をあなたに

ゆるやかな時が過ぎてゆく
僕のまわりの世界はみんな
あなたがこしらえてくれたふる里
そんな思いを花に託して
この花束をあなたに
そんな思いを花に託して
この花束をあなたに

わすれ雪

雪が降る今日も降る
巷のざわめき消して降る
夜の雪は優しく降る
できるならこの胸の 痛み消して積もれ
あなたのあの面影 隠して積もって消してしまえ
わすれ雪になれ

倅せになりたくて
みつめて来たのはあなただけ
いつの間にか信じていた
あなたとのささやかな あたりまえの暮らし
あなたを愛していた あの日も季節に埋もれてゆく
忘れられないのに

未練なら消してくれ
冷たくやさしいわすれ雪
そっと積もれ止まずに降れ
燃えている残り火の 上にそっと積もれ
あなたが残していった 思い出包んで溶かしてくれ
わすれ雪になれ



MUSICIAN

「安曇野」

ドラムス:伊藤史朗
ベース:TOSHITARO
ギター:小畑和彦
ピアノ:西村和彦
オカリナ:旭 孝
ストリングス:篠崎 正剛カルテット

「ふる里景色」

ピアノ:西村和彦
ベース:TOSHITARO
ギター:小畑和彦

「生きている悲しみ」

ベース:池辺直樹
ギター:安田裕美
ギター&マンドリン:田代耕一郎
キーボード:旭 孝
パーカッション:川瀬正人

「ふる里に帰りたい」

ギター:手仕事屋さち兵衛
小畑和彦
朗吟:土屋玲子

「いつの日にかあなたと」

ドラムス:日高 弘
ウッドベース:杉山茂生
ギター:小畑和彦
ピアノ:宮前幸彦
ヴァイオリン:土屋玲子
パーカッション:石川 智

「ホリデイ」

ドラムス:日高 弘
ウッドベース:杉山茂生
ギター:小畑和彦
ピアノ:宮前幸彦
スティールパン:原田芳宏
パーカッション:石川 智

「印象派」

ピアノ:西村和彦
ベース:TOSHITARO
ギター:小畑和彦

「木更津にて」

ギター:手仕事屋さち兵衛
小畑和彦

「秋の日」

ギター:小畑和彦
パーカッション:石川 智

「花束をあなたに」

ギター:手仕事屋さち兵衛
小畑和彦
ヴァイオリン:土屋玲子

「安曇野」reprise

ストリングス:篠崎 正剛カルテット

「わすれ雪」

ギター:手仕事屋さち兵衛
小畑和彦

STAFF

RECORDED BY 増田 晋
滝川博信

ALL TRACKS MIXED BY 増田 晋
ASSISTANT ENGINEER 尾立昌則

山下剛司 (パワーハウスST)
山口敦史 (フリー四谷ST)
吉田一紀 (サウンドシティ-ST)

TECHNICAL ENGINEER 高橋邦明
MASTERED BY 金子清司 (関口合スタジオ第1マスターングルーム)

ART DIRECTED & DESIGNED BY 橋田貴文

PHOTOGRAPHY BY 飯島見峰
DESIGN CO-ORDINATED BY 丸安秀治
DRAWINGED BY 斎藤 清

SPECIAL THANKS:

手仕事屋さち兵衛保存会、齊藤 清、宮下常雄、馬場信一(ハンスオン)、椎名和夫(スペースコーポレーション)、山崎良弘(玉の湯)、高橋 卓志(神宮寺)、齋川 洋(あるおすぞば)、塚本 茂(文化放送)、武田 敏、松倉信弥(DAT MUSIC)、荒川孝之(エムクルー)

取り扱ひ上のご注意●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内面から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や線を書いて、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや変形、又は接合部等で損傷したディスクは、危険ですが絶対に使用しないで下さい。保管上のご注意●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。●ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。●プラスチックケースの上にも重いものを置いたり、重たしつけると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。

DIRECTED BY 水川忠良

TOTAL ARTIST MANAGEMENT &
MUSICIAN CO-ORDINATION 八尋隆夫(K-FIVE)

SUPERVIZER 玉井進一(JCM)
齊田政弘、大久保健二(KING RECORDS)

EXECUTIVE PRODUCER 三本明博(JCM)
坂本敏明(KING RECORDS)